# 論　文　要　旨

（外科的寛解が得られた先端巨大症患者における GH 分泌不全症は稀である。）

氏名　藤尾　信吾

術後寛解に至った先端巨大症患者における成長ホルモン(GH)分泌不全症(GHD)は、脂質代謝やquality of life(QOL)に悪影響を及ぼすことが知られている。しかし、GHDの頻度、原因、心身への影響については不明な点も多い。我々は術後寛解に至った先端巨大症患者におけるGH分泌能、予後因子、QOLに与える影響について調査した。術後、Cortina consensus criteriaを満たした72名の先端巨大症患者を対象とし、インスリン低血糖刺激試験(ITT)を用いてGH分泌能を調査した。QOLはSF36を用いて評価した。GH頂値が3.0μg/L以下の重症GHD(sGHD)は12.5%であった。sGHD群は非sGHD群に比較して術前の腫瘍サイズが有意に大きかった。ITTにおけるGH頂値はSF36の身体的健康度に比例した。術後のGH分泌能はQOLに影響を与えることから、下垂体機能の温存を心掛けた手術を施行すべきである。